

メニュー オプションからのターミナル サーバの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[コンフィギュレーション](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、メニューオプションを使用して、ルータのターミナルサーバに接続されているデバイスのアクセスを管理する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ターミナル サーバの設定
- オクタル ケーブル

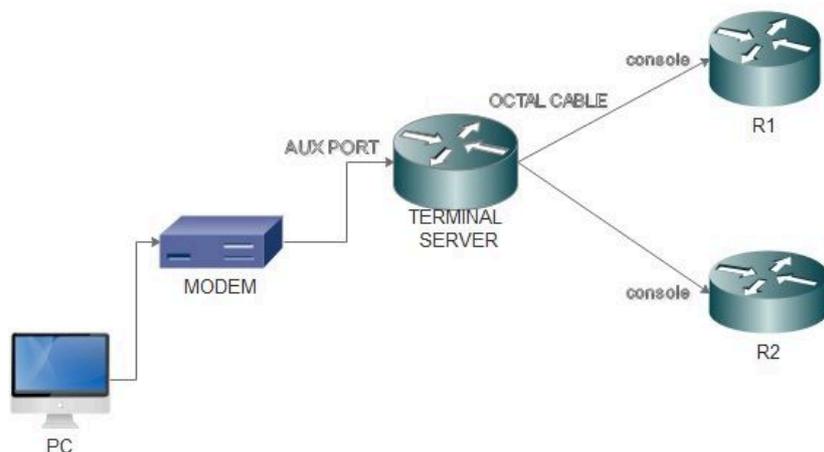
使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、HWIC-8Aのような非同期モジュールを備えた第2世代サービス統合型ルータ(ISR G2)に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

設定

ネットワーク図



コンフィギュレーション

ステップ 1：ルータにループバックインターフェイスを設定し、IPアドレスを割り当てます。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
interface loopback 1
```

```
Terminalserver(config-if)#
```

```
ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
```

ステップ 2：ターミナルサーバからエンドデバイスへの物理的な接続を確認し、各デバイスに対応する回線番号をメモします。HWIC-8Aは、出力で示すように8つの回線を提供します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver#
```

```
show line
```

Tty	Line	Typ	Tx/Rx	A	Modem	Roty	Acc0	AccI	Uses	Noise	Overruns	Int
*	0	0	CTY	-	-	-	-	-	7	0	0/0	-
	1	1	AUX	9600/9600	-	-	-	-	0	0	0/0	-
	2	2	TTY	9600/9600	-	-	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/0	3	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	2	3	0/0	-
	0/0/1	4	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	3	2	0/0	-
	0/0/2	5	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/3	6	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/4	7	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/5	8	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/6	9	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-
	0/0/7	10	TTY	9600/9600	-	DTR-Act	-	-	0	0	0/0	-

ステップ 3 : 次の例に示すように、各デバイスのIPホストマッピングを設定します。ポート番号は、各デバイスに対応する回線番号に 2000 を加えて求めます。たとえば、上記の出力で示すように、ポート 0/0/1 に接続されているデバイスの回線番号は 4 です。デバイスに接続するためのポート番号は 2004 (2000+4) となります。

<#root>

```
Terminalserver(config)#
ip host R1 2003 10.1.1.1
Terminalserver(config)#
ip host R2 2004 10.1.1.1
```

ステップ 4 : メニューオプションを設定するには、次の例に示すように、最初にターミナルサーバのバナーまたはタイトルを設定します。

<#root>

```
Terminalserver(config)#
menu cisco title $
Enter TEXT message. End with the character '$'.
+++++
welcome to the Terminal Server
To exit from the device, use CTRL+SHIFT+6 then press x
+++++
$
```

ステップ 5 : このコマンドは、メニューの選択オプションを提供するため、設定する必要があります。

<#root>

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco prompt $
```

```
Enter TEXT message. End with the character '$'.  
Choose your option  
$
```

手順 6：オプションを選択した後に [Enter] を押す必要があるように line-mode を設定してください。このコマンドを使用しない場合、メニューはオプションを選択した直後に実行されます。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#  
menu cisco line-mode
```

手順 7：新しい接続を設定するには、次のメニューコマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#  
menu cisco command 1 telnet 10.1.1.1 2003  
Terminalserver(config)#  
menu cisco text 1 login to R1
```

ステップ 8：次のメニュー コマンドは新しい接続を開くか、または設定されたホストへの接続を再開します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#  
menu cisco command 2 resume R2 / connect telnet R2  
Terminalserver(config)#  
menu cisco text 2 login to R2
```

ステップ 9：メニューに入った後で画面をクリアするには、次のコマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco clear-screen
```

ステップ 10 : ユーザステータスを画面の上部に表示するには、次のコマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu main status-line
```

ステップ 11次のメニュー コマンドは、メニューを終了するために設定する必要があります。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco command e menu-exit
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco text e menu-exit
```

ステップ 12ターミナル サーバの接続を終了するには、次のメニュー コマンドを使用します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco command q exit
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
menu cisco text q disconnect from terminal server
```

ステップ 13これらのコマンドは、ユーザがTelnetまたはセキュアシェル(SSH)経由でログインするときに自動メニュー実行を行うようにVTY回線で設定されます。

```
<#root>
```

```
Terminalserver(config)#
```

```
line vty 0 4
```

```
Terminalserver(config-line)#
```

```
autocommand menu cisco
```

```
Terminalserver(config-line)#
```

```
login local
```

```
Terminalserver(config-line)#  
transport input ssh  
Terminalserver(config-line)#  
transport output all
```

確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

R1 に Telnet します。

```
<#root>
```

```
Terminalserver#
```

```
menu cisco
```

```
+++++  
welcome to the Terminal Server  
To exit from the device, use CTRL+SHIFT+6 then press x  
+++++
```

```
1 login to R1  
2 login to R2  
e menu-exit  
q disconnect from terminal server
```

Choose your option

```
1
```

```
R1#
```

```
Terminalserver#
```

```
show sessions
```

Conn	Host	Address	Byte	Idle	Conn Name
* 1	10.1.1.1	10.1.1.1	0	0	10.1.1.1

R2 に Telnet します。

```
<#root>
```

```
+++++  
welcome to the Terminal Server  
To exit from the device, use CTRL+SHIFT+6 then press x  
+++++
```

```
1 login to R1  
2 login to R2
```

```
e menu-exit
q disconnect from terminal server
```

Choose your option

2

Terminalserver#

```
show sessions
```

Conn	Host	Address	Byte	Idle	Conn Name
1	10.1.1.1	10.1.1.1	0	0	10.1.1.1
* 2	10.1.1.1	10.1.1.1	0	0	

メニュー オプションの終了.

```
+++++
welcome to the Terminal Server
To exit from the device, use CTRL+SHIFT+6 then press x
+++++
```

```
1 login to R1
2 login to R2
e menu-exit
q exit
```

Choose your option

e

Terminalserver#

ターミナル サーバの終了.

```
+++++
welcome to the Terminal Server
To exit from the device, use CTRL+SHIFT+6 then press x
+++++
```

```
1 login to R1
2 login to R2
e menu-exit
q exit
```

Choose your option

q

Terminalserver con0 is now available

Press RETURN to get started.

トラブルシューティング

ターミナルサーバからエンドデバイスに接続しようとする時、これらのエラーが発生する場合があります。

```
<#root>
```

```
Terminalserver#
```

```
telnet R1
```

```
Trying R1 (10.1.1.1, 2003)...
```

```
% Connection refused by remote host
```

これを解決するには、次の例のように、ターミナルサーバから対応する行をクリアする必要があります。

```
<#root>
```

```
Terminalserver#
```

```
clear line 3
```

```
[confirm]
```

```
[OK]
```

```
Terminalserver#
```

```
telnet R1
```

```
Trying R1 (10.1.1.1,2003)...open
```

```
R1>
```

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。